

「日本の展望と課題」

御厨 貴氏

12月9日(月)正午から、東海大学校友会館において第432回月例会を開催した。当日は、東京大学先端科学技術研究センター客員教授の御厨貴氏より「日本の展望と課題」と題する講演が行われた。出席者は59社72名であった。講演要旨は次のとおり。

「現在の安倍政権は安定的な基盤を有しているものの、先日の特定機密保護法案を巡っては、法案を通すにあたってやや慎重さに欠ける面があり、国会運営で混乱を生じさせた。一方の野党側も、法案自体の根本の中身についての議論をしないまま、法案の恐ろしさのみに言及したため、今後の使われ方などが不明確なままで法案が通る結果となった。長期的視点に立てば、特定機密の保護自体は必要であると思われるものの、もう少し慎重に審議にすべきであったように思われる。

近頃の国会では、法案を通すにあたって『この法案によって国がどうなっていくのか、この政策で国がどう変わるのか』といった実感や手応えが乏しいように感じられる。いわば審議の空洞化が起きており、それがここ10年近くの課題といえる。

その要因については、近年の政治状況が関係している。以前は各省庁において政策を立案する際には、10年後などの先を見据えながら立案していた。しかしながら、近年は毎年のように政権が代わり、次に誰が首相に就任するのか見通すことができない政治状況の中では、官僚側も安心して政策を提出することができず、長期的なビジョンで政策を計画しにくい状況が続いている。また、国際社会に対しても、日本の『顔』が次々と変わってしまう現状が続けば、日本への信用が失われてしまう事態にもなりかねない。

今回の安倍政権は前回政権時の失敗も教訓にしつつ、官邸主導によって順調に政権運営を進めている。また、政権発足後一度も内閣改造を行っていないが、その要因の一つは、内閣改造の意味合いが昔とは変わり、場合によっては政権の弱体化にもつながる可能性があるためである。かつては派閥のトップが人事権を握り、仮に内閣改造によって短期間で大臣を辞職することになった人に対しても次のポスト



東京大学先端科学技術研究センター客員教授
御厨 貴氏

トが保障できたため、党内に大きな不満は起きなかった。しかし、現在の派閥は人事権においても非常に力は弱くなり、いわゆるポストの裏書きができない。また、各大臣が本当に力をつける意味でも、今回の安倍政権は短期的な内閣改造を避け、人材育成をしっかりと行いたいという意図がうかがえる。

このように官邸主導を行ううえで、しっかりとした基盤の整備を進めてきたため、今後の課題は人事面よりも『何を行うのか』という点になるだろう。経済政策では、第一の矢、第二の矢が放たれ、第三の矢が放たれようという中で、成長戦略を着実にやっているということをしかりと国民に伝えていくことが重要である。そして、東アジアにおける日本の立場を明確に示すなど、安全保障面を含めた、国家的価値の問題について取り組む時が来ていると思われる。この問題をどのようにこなしていくかが今後の安倍政権の大きな課題となるだろう。そして、安倍政権が次に何をやるべきか、どのような優先順位で進めていくのかを、政権の行く末を見据えながら、官邸を中心にしっかりと安倍首相を支えていけるかが最大のポイントとなるだろう。

また、外交面で今後の重要な課題となるのが、安全保障問題である。中国の動きなどを見極めながら米国との関係を強化するとともに、今置かれている日本の立場や取り組みを、グローバルな言語で直接国際社会にアピールしていくことが重要であり、そうした広報力が長期的な日本の安定を支えていく根底となるだろう。」

(文責・事務局)